

はじめに

技術研究所 所長 八ツ繁 公一

私達の技術研究所は緑の多い武蔵野台地の一面に位置しています。設立以来20年となりました。この間のご指導を感謝いたします。ここで改めて研究所の周囲について紹介させていただきます。研究所への桜の並木道は、春は白いトンネルとなり花吹雪の後はハナミズキが続きます。そして、建物を囲むブナ林は、夏は若葉の芽吹きと新緑、秋は紅葉と落葉、冬は澄み切った青空の下、空っ風が枯木立のシルエットを吹きぬけます。私達は武蔵野の面影に恵まれた四季の中で研究開発を進め、情報を発信しています。

施設の一部は、安藤建設がお客様に提案する空間を体験していただくために用意されています。お客様ご自身が望まれる空間への確信に加えて、新たな要望が私達の重要なテーマとなります。また、これから設計・施工に携わる人達にとっては、自分達が提供する空間への責任とその実現への工夫を再確認できる場であり、それらが私達のテーマとなります。是非、お気軽にお出でいただきますよう、お待ち申しあげます。

本年度は、我が社の中期計画・ADV（アドバリュー）2008の最終の年度に当たります。長期的には「強い現場力と高い企業競争力で持続可能な成長を続ける一流・先端企業」を目指します。そして、中期企業イメージとしては、「VALUE創造専門家集団」としてANDOBランドを高め続ける企業を掲げて活動してきました。

この間の活動は、特に注力分野を絞り込み、目標を明確にすることで、人的資源を有効に活用することができましたし、具体的な開発テーマの明確さが開発の足回りの速さに結び付けられてきました。

しかし、更に続く次期中期には多くの課題が予想されます。サブプライムローン問題に端を発した米国金融界の混迷は、大手証券会社の経営破たんを転機として全世界に波及し、我が国においても株価の記録的な急落等、経済に深い影を落としています。耐震偽装に発した安全・安心への疑問視は、建築基準法ならびに建築士法の改正により解決の方向は定まりましたが、一旦失った信用の回復には時間がかかりそうです。勿論、地球温暖化防止へのCO2削減は大きなテーマとして挑まなくてはなりません。

明確な回答が得難く、多くのファクターが重なり合いトレードオフの関係を持つ課題を技術の観点から解決し、お客様の信頼を得て、企業活動に貢献していきたいと思えます。

その成果を新しいテーマとして技術研究所報によりお届けしたいと期しています。

技術研究所報は研究活動の情報発信源として、また、皆様方からいただきましたご指導へのお礼としてお届けしたいと思えます。

皆様方のご指導とご協力をお願い致します。

2008年10月